

【平成26年度 学校評価】

本年度の重点目標		社会に貢献する工業人財の育成 ～心技体をみがく～	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒指導 (生徒指導部) (各学年)	<ul style="list-style-type: none"> 常に身だしなみを整える習慣の定着 礼儀正しい態度・言葉遣いの育成 規律ある態度の定着 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる場面で全教職員が毅然とした態度で指導する。 声かけをし、機を逃さず指導する。 遅刻指導等段階的な指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、時間を守ることを大切さを理解させ、社会人として通用するように指導する。
学習指導 (教務部) (各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間を確保する。 基礎学力の向上を目指し、家庭学習の充実を図り、学ぶ姿勢を構築する。 授業では、分かりやすい授業、考える授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事などの実施の際、時間帯などを考慮し授業の時間確保を図る。 学科・教科の課題等を定期的に出して家庭学習をさせる。 授業の工夫や観点別評価の取り組みを推進させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事・L Tも重要であるため、授業とのバランスを考えて行う。 朝の読書で読書に集中できる雰囲気や体制を全校で取り組む。 高いレベルの授業内容を、わかりやすく、興味関心が高まるように指導する。
進路指導 (進路指導部)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の更なる向上 S P I の理解と必要性 挨拶するや身だしなみ波を含めたコミュニケーション能力の向上 本校にあった講演者の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎力診断テストの実施 S P I 問題集の実施 職業適性検査の実施 年6回の面接指導の実施 1年生インターンシップの実施 工業高校卒業生の講演実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢」実現のために、1年生の段階から挨拶やコミュニケーションの大切さを理解させ、学校全体でインターンシップに取り組む。 基礎力や面接力を高めるために、心技体をみがけるよう普段から社会人としての姿勢を教えていく。
P T A 活動・式典 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会と連携して創立70周年事業を成功させる。 安心、安全な環境を整える。 地域の方々から愛される学校として交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会と連携を図るために実行委員会を開催し、70周年記念式典に向け詳細な計画を立てる。 非常時に対応できる環境作りを推進する。 70周年の取組みとして小・中学校及び地域の方々と交流を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 及び同窓会の意見交換を進め、よりよい創立記念事業が実施できるようにする。 非常時への対応や、防災訓練をより現実的なものにするための計画をたてる。 各分掌とも連携を図り、P T A も参加できる形で交流会を実施させる。
生徒会・部活動 広報 (生徒会部)	<ul style="list-style-type: none"> 部活動を通して心身共に成長させ、社会性を養う。 部活動の活性化により、学校の勢いに拍車をかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動のルールやマナーの徹底から社会的な礼儀作法、教養を身に付けさせる。 1つの目標に向かって、全員が一丸となって取り組むことの大切さを理解させ、部活動のみならず学校行事等への積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて適宜ミーティング等を行い、顧問と部員の信頼関係を築き、指導に当たる。 各学年や分掌と連携をして情報を収集、学校行事等に積極的に参加できる環境をつくる。
保健活動 清掃美化活動 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃の充実・徹底 健康意識の定着 相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃時間を確保し、全員清掃の実施 缶、ペットボトルの分別の徹底 基本的な生活習慣の確立 疾病予防についての知識の定着 組織として対応できるような相談体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主的積極的な清掃活動を養う。 集会や、HR活動で健康的な生活習慣の重要性を伝える。 定期的に「保健だより」を発行する。 利用しやすい相談室の雰囲気を作る。
資格取得 (工務部)	<ul style="list-style-type: none"> 資格・検定取得を高校生活の到達目標のひとつと位置づけ、積極的に支援し奨励するとともに、生徒が自ら進んで資格取得に取り組める指導体制の確率を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格・検定に関する情報を詳細に提示し、生徒の資格・検定取得への意欲を高揚する。 関連教科との指導の連携を図る。 情報技術基礎におけるプログラミング言語Cの指導を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら学ぶために適切な教材を提供する。
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の向上と実習室の環境誠意に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習中の5 S を徹底し、危険感受性を高め、主体的な学習活動ができるよう環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習時の安全意識を高める。 習慣化できるまで繰り返し指導を徹底する。
電子機械科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を身につけさせるとともに、工業人としての資質を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子機械科課題を継続的実施し、生徒の学習意欲を高める。 資格・検定等の指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に行い習慣化させるためにも、教員・生徒ともに過度な負担にならない範囲で実施する。
電気科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力が向上できるように、日々の授業を大切にする。 電気工事士免許取得に向けた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境を整え、課題や補習を行う。 資格取得のためのきめ細やかな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の夢を叶えることができるように、個々の生徒指導を徹底する。
情報システム科	<ul style="list-style-type: none"> 日々の座学・実習を大切にする。 資格取得の指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> めりはりのある授業を展開する。 社会に対応できるようにする。 資格取得へ補習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科で協力しながら取り組む。 多様な進路希望に対応できるように心掛ける。
1年生	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活態度の育成 正しい判断力の構築 他を尊重する心の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席の理由を確認し的確に指導する。 授業を第一に考え、放課との区別をつけさせる。(5分前行動、授業の準備、授業中の姿勢) 発する言葉、態度・姿勢等把握し、良好な関係を築けるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年団で連携を密にし協力して対応する。 『厳しいが冷たくなく、優しいが甘くない』対応を図る。 積極的に生徒と関わり、熱意をもって指導に当たる。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> 進路を見据えた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業を利用してS P I の学習をさせる。また、企業・学校に関する情報を調べさせる。 集会時において、集合の時間・服装・整列の指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業、学校調べでは、担当が生徒の情報を確認して、個々の状況を把握する。 担任や室長の指示がなくても集合・整列ができるように、個々の意識を高める指導を徹底する。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の希望進路実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を行い、S P I や各教科の問題集を活用し、基礎学力向上を目指す。 進路講演会の実施や個人面談を通して、個々に合った進路情報の提供をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から面接試験を意識した声の大きさや話し方、言葉遣いを意識させる。 進路指導部と連携を図り、進路情報を迅速に生徒に伝えていく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 体罰・いじめ・不登校のない安全・安心な学校づくりについて 70周年事業に向けた生徒・教職員の取り組み成果について 魅力ある学校づくりに向けた学校外への情報発信(広報・ボランティア等)について 生徒第一(プレーヤーズファースト)を念頭とした教育相談の充実について 	

【平成25年度 学校評価 結果】

前年度の重点目標	本校の特色を活かし、地域から愛され信頼される魅力ある学校づくり・・・生徒・保護者の夢を叶える学校		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導部) (各学年)	・自ら身だしなみを整え、あいさつ、言葉遣い、時間を守るなど規律ある態度を身に付けさせる。	・登校時の校門指導、定期的な身だしなみ指導等あらゆる場面で指導をする。 ・携帯電話等の預かり指導を徹底する。	・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、時間を守るなどできているが、さらに基本的生活習慣の確立に向けて全教職員で日々の指導を充実し、規律ある態度を育てていきたい。
学習指導 (教務部) (各教科)	・落ち着いた学習環境を構築する。 ・授業規律の確立と理解できる学習指導、分かりやすい授業、考える授業をベースに生徒の力を伸ばす。	・朝の読書を通じて集中力を高め、文字情報からイメージすることで脳を鍛える。 ・授業開始のチャイムと同時に号令ができ、興味を持って授業に臨めるようにする。	・図書室の整備がほぼ完了し、電算システムが稼働できた。また、案内板も一新し利便性が上がった。 ・朝の読書週間は全教職員で指導に当たれ、落ち着いた環境が構築されている。 ・授業の始めと終わりの号令がしっかり行われ、けじめがついている。
進路指導 (進路指導部)	・基礎学力の向上 ・SPIの必要性、自己のレベルの確認 ・コミュニケーション能力の向上 ・本校にあった講演者の発掘	・基礎力診断テストの実施 ・SPI問題集の実施 ・職業適性検査の実施 ・年6回の面接指導の実施 ・1年生インターンシップの実施 ・工業高校卒業生の講演実施	・計画通り実施できた。結果として今年度も愛知県トップの内定率となり、11月中旬には就職率100%となった。 ・生徒の適正にあった取組が必要である。そのためには、今以上の教職員の協力と団結が不可欠である。
P T A活動・式典 (総務部)	・P T A活動を通して地域への連携を深める。 ・安心・安全な環境作りをする。	・P T A活動を活性化し、行事・式典等積極的に活動するよう常に連携を図る。 ・防災マニュアルを活用するため訓練を重ねる。 ・備蓄等非常時の安全な環境作りを推進する。	・P T A活動や防災対策等、仕事量の増加に対して分掌の人員増加を図るとともに、教職員全体での協力体制を整えたい。 ・P T A活動の活性化に伴い保護者の理解や協力が得られるようになった。 ・P T A会報「亀甲石」の記事が速やかに収集できる体制を整えたい。また、後継者の育成を図りたい。
生徒会・部活動 広報 (生徒会部)	・部活動を通して心身共に成長させる。 ・2、3年生も部活動へ積極的に参加させる。 ・各行事や部活動結果などの積極的な情報発信	・部活動のルールやマナーの徹底から社会的な礼儀作法、教養を身に付けさせる。 ・部活動を継続して努力することの大切さを理解させる。 ・学校ホームページやメール連絡網を積極的に活用する。	・あいさつなどの社会的な礼儀作法に関しては部活動を通じてさらに高い意識で取り組ませる必要がある。 ・学校行事や修学旅行の情報など、メールやホームページ上、プリント等で情報発信ができた。 ・メール連絡網は各分掌・学年団と連携を図り、さらに幅広く活用し保護者への情報提供をしていきたい。
保健活動 (保健部)	・校内美化の促進 ・健康意識の定着 ・相談体制の充実	・清掃道具の充実 ・ゴミの分別の徹底、減量化の推進 ・基本的生活習慣の確立 ・疾病予防についての知識の定着 ・相談しやすい環境づくり	・校内美化は概ね達成できたが、清掃時間の確保という観点から考えると、現在の「終礼→清掃」より「清掃→終礼」の方がよいと思われる。 ・夏季の水分補給、冬季の換気などで、健康意識の定着はできたと思われる。 ・相談アンケート、スクールカウンセラーとの連携で相談体制の充実が図れた。
資格取得 (工務部)	・資格・検定取得を高校生活の到達目標のひとつと位置づけ、積極的に支援し奨励するとともに、指導体制の強化を図る。	・資格・検定に関する情報を詳細に提示し、生徒の資格・検定取得への意欲を高揚する。 ・関連教科との指導の連携を図る。 ・プログラミング言語Cへの移行を支援する。	・リスニング英語検定の合格率が減少した。出題傾向を分析し、過去問を解くことを中心とした指導から、生徒自らが進んで取り組める指導へと転換を図る必要がある。 ・情報技術検定は、難易度が高い出題に対して予想以上の成果をあげた。 ・ジュニアマイスターの認定不可があった。認定日や「佳作」と「入選」等のチェックが必要である。
機械科	・実習室の整理・整頓 ・資格取得の奨励 ・課題解決能力の育成	・5Sの徹底 ・資格取得に関する啓発活動の展開 ・補充、補習の充実	・5Sの徹底は不十分であった。特に切屑の分別ができなかったので改善を図っていきたい。 ・資格取得のための補習は担任が中心になってしまったので、科内で係を決めて計画的に取り組ませたい。
電子機械科	・生徒個々の基礎学力の向上を目標に、家庭での学習習慣づけを目指す。	・電子機械科課題を準備し、継続的に生徒の学習活動の手助けを行う。 ・課題の評価を行い、学習意欲の向上を図る。	・電子機械科課題は、クラス担任や科の職員の協力により継続して実施することができた。この指導がさらに生徒の学力向上や資格取得に結びつくようにしていきたい。
電気科	・日々の授業を大切に、基本学力をしっかりと身につけさせる。 ・第2種電気工事士免許取得に向けての指導	・学習環境を整え、課題を与える。 ・資格取得のための補習を行う。	・第2種電気工事士試験に合格した生徒の中から、さらに上級の第1種に挑戦し、9名全員合格した。 ・その他の資格についても生徒が意欲的に取り組めるよう、補習の充実を図るなど、指導内容や指導体制の一層の充実に努めたい。
情報システム科	・基礎基本を重点にし、日々の座学・実習を大切にする。	・座学や実習の始まり、終わりのけじめをつけさせる。 ・社会に対応できるようにする。 ・資格取得への対応を充実させる。	・基礎・基本に重点を置き授業に臨んだ。卒業後の社会に対応できるように助言をしながら人間形成に取り組んだ。 ・年度途中で就職に変更した生徒は、就職先が見つげにくかった。早めの対応や連携をしていきたい。
総合評価	学習指導、生徒指導、進路指導など学校教育活動全般においてアンケート結果（保護者・生徒）は高い評価をいただいた。厳しい経済状況の中において県内で最も高い就職試験一次内定率90.6%と県内で最も早い就職内定100%の実績や、挨拶や身だしなみ指導を中心とした学習環境の充実、部活動の活性化や資格取得に力を入れていることが信頼を得ている要因であると考える。また、本年度はより一層安全・安心な学校を目指すために、「体罰・いじめ防止対策委員会」を設置し、学校外部からの幅広い声を伺い学校運営に役立てることができた。次年度、創立70周年を迎えるに当たり、さらに活力の漲る学校教育活動が展開できるよう、教職員、保護者、同窓生が一致団結して取り組んでいきたい。		

【平成25年度 学校関係者評価結果等】

<p>学校関係者評価を実施した主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体罰・いじめのない安全・安心な学校づくりについて ・生徒第一（プレーヤーズファースト）を念頭とした教育相談の充実について
<p>自己評価結果について</p>	<p>体罰・いじめに関する具体的な防止策として、①生徒を対象とした定期的なアンケート調査の実施、②意見箱の増設と有効活用、③学校外部の方や保護者の皆様を対象とした公開授業・部活動の実施、④教育相談の充実に向けた体制整備、⑤教職員のコンプライアンス向上の現職研修の充実、⑥部活動運営に係るPTAの協力体制の確立の6項目を掲げ、体罰・いじめ防止対策年間スケジュールに基づき計画的に取り組んだ。特に保護者、地元の有識者、教職員の16名で組織する「体罰・いじめ防止対策委員会」では、学校外部からの声や地域の情報を聞くことができ、学校運営に役だった。次年度においても、引き続き6項目をさらに充実させて取り組んでいきたい。</p>
<p>今後の改善方針について</p>	<p>○悪いことについては指導することはある意味必要である。体罰やいじめに関しては、当事者の認識の違いによってとらえ方が違い難しい側面がある。企業においても社員を躾ける意味で、厳しい指導が必要な場面は多々ある。○これまでの成果は間違いなく学校全体の取り組みによって生まれてきたことである。是非、今後も継続してほしい。○体罰事案を受け、教職員が指導に対して遠慮してはいけない。教職員の対応の仕方が変わること、生徒の雰囲気（意識）が変わってしまわないようにしてほしい。○生徒指導や部活動指導は攻めでなくてはならない。先生方は自信を持って、委縮することなく指導をしてもらいたい。○相談活動が後手に回らないように先手で対応を図ることが大切である。○対策委員会がよりよい方向を導き出すために、目標値や手段を示すなど、目に見える形を外部に表した方が良いのではないか。○いじめを無くすには、悪いものには悪い、良いものには良いという考えを持たせ、クラス担任などが、様子を伺い対応することが必要である。○報道機関への対応は毅然とした対応で臨んでほしい。</p>
<p>その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）</p>	<p>○陸上部がマスコミから一時取り上げられ心配したが全国大会出場が果たせて本当によかった。○就職内定100%は素晴らしい。卒業生を職場へ送り出してから、追跡調査をして、在校生に問題点等をフィードバックしてほしい。○発明クラブでボランティア部の活動は大変評価が高い。○同窓生として良い後輩が育ってきており頼もしく感じている。○最近の中学生は、道具を使用しない、使えない状況にある。本校がものづくりの発信源となってほしい。○文化祭の展示は作品を動かすなど見せ方の工夫が必要である。○挨拶がきちんとできるなど、躾に対して手が行き届き、生徒が以前に比べ大変しっかりして評価が高くなってきている。○インターンシップにより働いている人の姿を見る機会を増やしてほしい。できれば、期間が1週間程度あると効果があるのではないか。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成・・・学校評議員（5名）、保護者（3名）、地元有識者（3名）学校関係者（5名） ・評価時期・・・6月下旬、11月中旬、2月中旬